

基礎的な能力を育み、表現力を高めるための授業の工夫
～鑑賞と表現の関連を図ったICTの効果的な活用を通して～

1. 設定理由

生涯にわたって児童が豊かな音楽活動ができるようになるためには、より密接的な鑑賞及び表現の関連を図ることが必要である。そして、児童の思いや意図を理解し、よりよい表現を求めるようにしたり、友達と協力して1つの音楽をつくり上げることの楽しさを感じたりしながら、学習を進めることが大切である。

第3学年では、音楽づくりが活発かつ効果的に行われるために、iPadを活用して映像を流しながら鑑賞を行うことで、お囃子への興味・関心を高めていく。その後、音楽づくりでは、お囃子の旋律づくりを行った後、iPadを用いて和太鼓でのリズムづくりを行う。

第4学年では、鑑賞の授業において、ICTを活用してリズムや速度を変化した曲を聴き比べ、表現の違いを感じ取るようにする。そして、音楽づくりでは鑑賞活動での学びを取り入れ、旋律をつくっていく。

鑑賞や表現の授業の中にICTを効果的に活用することで、意欲化が図られ、表現力が高まっていくであろうと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

仮説1 鑑賞の授業において、ICTを活用し、音楽の変化や面白さを感じ取らせることで、音楽づくりへの意欲化が図られるであろう。

仮説2 ICTを活用した授業の工夫をすることで、児童どうしのかかわりが深まり、更に主体的に表現する力が高まるであろう。

3. 研究内容

(第3学年) ○ICTを活用した鑑賞活動と表現活動の実践

○総合的な学習の時間へのつながり

(第4学年) ○ICTを活用した鑑賞活動の工夫

○鑑賞活動と音楽づくりの一体化

4. 結 論

○ICTを用いて鑑賞活動で映像を見せたり、和太鼓の演奏を体験したりすることで、意欲的に音楽づくりにとりくむことができた。

○ICTを活用して自分たちに合ったリズム伴奏のテンポで練習していくことで、曲に合わせて効果的に練習することができ、表現力が高まった。

基礎的な能力を育み、表現力を高めるための授業の工夫
～鑑賞と表現の関連を図ったICTの効果的な活用を通して～

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領では、音楽科の目標を「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」こととしている。「音楽活動の基礎的な能力」とは、生涯にわたって児童が豊かな音楽活動ができるようになるために、小学校の段階で、はぐくんでおきたい音楽的な能力のことを意味している。中学年の児童は、音の高さを聴き分ける能力が発達してくる。そこで、聴唱や聴奏の能力を伸ばし、視唱や視奏によって旋律の動きや旋律どうしのかかわりを意識できるようにすることを通して、音楽表現を工夫する能力を身に付けるようにする。また、中学年になると、曲想にふさわしい表現を考えたり、思いや意図をもって音楽をつくり出すことができるようになる。音楽表現の楽しさを感じ取るために、児童の思いや意図を理解し、よりよい表現になるようにする。そして、友だちと協力して一つの音楽をつくり上げることの楽しさを感じながら学習を進める。鑑賞と表現の密接な関連を図る授業を行い、児童の基礎的な能力を育み、更に豊かな表現力を高めていきたい。

第3学年の児童（男子8人、女子9人、計17人）は、音楽科の学習では体を揺らしながら歌ったり演奏したりするなど、楽しく活動にとりくむ姿が見られる。しかし、音楽づくりの授業では、音楽的な経験が乏しいために発想が広がらず、消極的な児童が多い。第4学年の児童（男子7人、女子5人、計12人）は、音楽が好きな児童が多く、大きな口を開けて伸び伸びと歌う姿が多く見られる。一方で、技能面での個人差がかなり大きい。楽器を演奏することに抵抗を示す児童が少なくない。

これらの実態をふまえ、ICTを活用して、効果的な授業の工夫をしていきたい。第3学年では、鑑賞活動のときにiPadで映像を流しながら行うことで、お囃子への興味・関心を高めていく。その後、お囃子の旋律づくりの後、iPadを活用して和太鼓でリズムをつくり、演奏を試みる。和楽器のない環境ではあるが、ICT機器を使用して、和太鼓の音色を感じ取れる環境を整えると同時に、和楽器のよさを味わうことができるようにしたい。また、ICT機器を活用することで、音楽づくりに消極的な児童も意欲的にとりくむことができるであろう。

第4学年では、鑑賞の授業において、ICTを活用してリズムや速度を変化させ、それらを聴き比べることで、表現の違いを感じ取るようにする。そして、鑑賞活動での学びを取り入れ、音楽を形づくっている要素を理解しながら音楽づくりを行う。鑑賞での学びを生かした活動を取り入れることで、児童も進んで表現することができるであろう。また、更に表現力を高めていくために、iPadでリズム伴奏の速度を変化させて、一人ひとりに合った速度で練習にとりくませていく。個に合わせた指導を行い、どの子も確実に技能が向上する環境を作ることで、表現力も高まっていくであろう。

以上のことから、鑑賞と表現の関連を図り、ICTを効果的に用いることで、児童の基礎的な能力を育み、表現力を高めるであろうと考え、本主題を設定した。

2 研究目標

I C Tを活用した鑑賞と表現の関連を図った授業の工夫をすることで、意欲を持って表現する児童を育む。

研究仮説

仮説1：鑑賞の授業において、I C Tを活用し、音楽の変化や面白さを感じ取らせることで、音楽づくりへの意欲化が図られるであろう。

中学年の音楽づくりでは、音楽づくりのための発想をもち即興的に表現する能力や音を音楽に構成する能力を育てることが重要である。この力を高めることで、高学年の時に、よりよい表現をつくり上げるために創意工夫を凝らしたり、音楽を積極的に聴いて、そのよさを味わったりすることにつながっていくと考える。鑑賞活動では、曲想とその変化を感じ取って想像豊かに聴いたり、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴いたりしながら、更に鑑賞と音楽づくりの関連を図り、児童の意欲の向上を図っていく。そのための手立てとして、以下の活動を行っていく。

【手立て1：常時活動の工夫】

第3学年の学習では、共通教材「ふじ山」「茶つみ」の2曲の4拍目の音を変えて演奏したものを聴き取る活動にとりくむ。曲の「続く感じ」と「終わる感じ」を意識させることで、旋律づくりを行うときに、フレーズのまとまりを意識できるであろう。また、和太鼓のリズム伴奏を考えるためには、お囃子の太鼓のリズムを理解し、正しくリズムを打つ力が不可欠である。4つのお囃子の太鼓のリズムを聴き取り、そのリズムを口唱歌しながら打つ。このような活動を行っていくことで、お囃子のリズムに慣れ親しみ、旋律に合った和太鼓のリズムを進んで考えたり、拍に合わせて打ったりすることにつなげていきたい。

また、第4学年の学習で音楽づくりを行う時に、様々なリズムを正しく聴きとったり、打ったりする力が必要である。「きらきら星」の旋律に4つのリズムを組み合わせてピアノで弾き、どのリズムが使われているかを聴いて当てていく。この活動を取り入れていくことで、リズムの拍の長さを覚え、リズムを正確に打つ力を高めていく。そして、リズムを正確に打つことができる喜びを味わい、音楽づくりにも意欲的にとりくむことができるようにしていきたい。

【手立て2：鑑賞活動の工夫】

第3学年の鑑賞活動では、はじめにC D音源のみで4つのお囃子を聴く。その後に、i P a dを使ってテレビに映像を流していく。楽器の音色や演奏方法を視覚的に捉えることで、C D音源のみで聴いていたときよりも音色や演奏方法の違いをはっきりと理解することができるであろう。また、実際の様子を見せることで、お囃子のよさや楽しさを感じ取ることもつながり、お囃子への興味・関心を高めることができると思う。

また、第4学年の学習では、はじめに「白鳥」の鑑賞をし、曲の特徴を感じ取り、感じ取ったことを言葉で表していく。その後、常時活動で確認している4つのリズムを使って、i P a dの「N o t i o n」で様々なリズムの「白鳥」を作成する。リズムアレンジした4つの「白鳥」を聴き比べ、リズムや速度が変わることで、印象の違いがあることに気付かせる。リズムアレンジ

した表現の特徴をもとに、その曲に合った名前をつけ、なぜそのように命名したのか、その理由を書かせる。このとりくみの中で、音楽の仕組みや音楽を形づくっている要素について理解させる。これらの活動を通して学んだ力を用いて、音楽づくりの活動を深めていきたい。

【手立て3：総合的な学習の時間へのつながり】

第3学年の総合的な学習の時間の自国の文化に関することを友だちと共同して調べる。その際に、祭りのお囃子や踊りについて取り上げる。お囃子に使われている楽器を調べていく中で、和太鼓の演奏体験をiPadの「太鼓魂」「Ohayashi Sensei」を使って行い、和楽器のよさを味わっていく。さらに、いくつかの和太鼓の音色を聴き比べることができるため、和太鼓の演奏に興味をもち、更に意欲的に音楽づくりにとりくむことができると考える。

仮説2：ICTを活用した授業の工夫をすることで、児童どうしのかかわりが深まり、更に主体的に表現する力が高まるであろう。

中学年の音楽づくりでは、授業の中で、児童が意欲をもって主体的にとりくむようにすることが大切である。そのための手立てとして、次の活動を行っていく。

【手立て4：鑑賞と音楽づくりの関連を図った活動】

第4学年の鑑賞活動の中で、リズムアレンジした4つの「白鳥」を聴き比べ、その中の「お気に入りリズム」を使って「せいじゃの行進」の音楽づくりを行う。「お気に入りリズム」のもととなる音楽を形づくっている要素を理解しているので、児童は音楽づくりが行いやすいと考える。また、「せいじゃの行進」では、音楽の仕組みから【反復】や【問いと答え】を使って、音楽づくりにとりくむ。鑑賞での学びを生かした活動を取り入れることで、児童も進んで表現することができるだろう。

【手立て5：ペア活動を取り入れた活動】

第4学年の「せいじゃの行進」では、【反復】、【問いと答え】を取り入れた音楽づくりを行う。その際にペアで音楽づくりを行っていく。本校の少人数のよさを生かし、児童どうしのかかわりを多く持っていきたい。お互いのお気に入りのリズムを使って音楽づくりを行っていく時には、iPadの「ハヤえもん」を使い、自分たちの技能にあった速度に合わせて練習していく。技能差が埋まることで、お互いに認め合い、自信にもつながると考えられる。

【手立て6：ICTを活用した表現活動】

第3学年のお囃子の旋律に和太鼓のリズム伴奏を考えていく際は、iPadの「太鼓魂」を使用し、和太鼓のリズム伴奏を考える。画面を打つ際に出る色の変化や大きさ等の視覚的な効果を用いることで、音量の差や音色の違いを発見し、主体的に効果的な音楽づくりにとりくむ。そうすることで、「このような音楽をつくってみよう。」といった意図をもち、試行錯誤しながら創意工夫することで、より表現力を高めることができると考える。児童が主体的に表現する気持ちを高めるために、ICTを活用していく。また、児童のコミュニケーション能力も高まると考える。

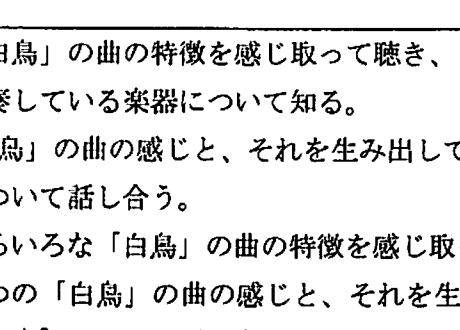
3 研究内容

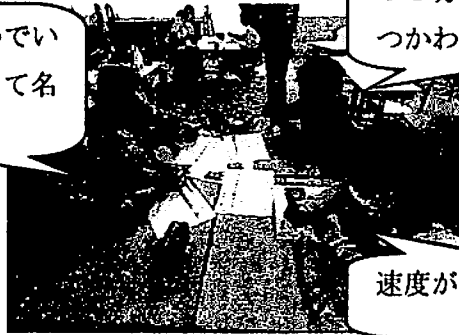
(1) 仮説1に対してのとりくみ

【手立て1：常時活動の工夫】

	時間	○学習内容 ・ 学習活動 【共通事項】
指導の過程と考察	常時活動	第3学年では、共通教材「ふじ山」「茶つみ」の2曲の4、8、12、16小節目の4拍目の音を変えて演奏したものを聴き取る活動を行った。最初は、曲の「続く感じ」と「終わる感じ」を聴き取ることができない児童も、徐々に聴き取ることができるようになり、つながりを意識して旋律をつくることができた。事前と事後の音のつながりを確認した活動調査では、2曲の音のつながりの聴き取りの正答率が高まった。(資料1-②) 次に、4つのお囃子の太鼓のリズムを聴き取り、児童とともに太鼓のリズムを考えた。始めは、「タ」や「ウン」などの言葉を当てはめてリズム遊びをしていたが、どこで打てばよいのかが理解できなかったようである。そこで、動物の名前を太鼓のリズムに当てはめて、口唱歌をしながらリズム遊びを行っていくと、すぐにリズムを理解し、リズムを正確に打てるようになった。(資料2) また、iPadの「GarageBand」でつくったリズム伴奏やメトロノームの速度を少しずつ変化させていくことで、より意欲的に活動にとりくむことができた。そこで学んだリズムを活用しながらグループごとに太鼓のリズム伴奏を考えると、進んで学習にとりくむ姿が見られた。 第4学年では、「きらきら星」を4分音符、8分音符、16分音符、符点音符の4つのリズムを組み合わせさせてピアノで弾き、どのリズムが使われているのかを聴いて当てていく活動を行った。最初は、音符の名称や音符の長さを全く理解していなかった児童も、少しずつ理解し、正確にリズムを打つことができるようになった。(資料1-⑥、⑦、⑧) そして、リズムを理解できたことで、できる喜びから自信にもつながり、その後の音楽づくりでも進んで活用し、いろいろな旋律をつくる姿が見られた。  今のところは つながっていないな。  今のは、16分音符 かな？

【手立て2：鑑賞活動の工夫】

	時間	○学習内容 ・ 学習活動 【共通事項】
授業展開の概要	第3学年 1・2／6	○「神田囃子」「花輪ばやし」「小倉祇園太鼓」「佐原囃子」のお囃子の特徴を感じ取る。 ・速度、楽器の音色、太鼓のリズム、感じたことや気づいたことに注目しながら、4つのお囃子を鑑賞する。 ・4つのお囃子の太鼓のリズム遊びをして、お気に入りのリズムを選ぶ。
指導の過程と考察	第3学年 1・2／6	「神田囃子」「花輪ばやし」「小倉祇園太鼓」「佐原囃子」の4つのお囃子の特徴を、速度、楽器の音色、感じたことや気づいたこと、太鼓のリズムに注目しながら、聴かせた。はじめにCD音源のみを聴き、次に映像を見ながら聴かせた。映像を流し始めると、CD音源のみの鑑賞のときと比べ、児童がより意欲的に活動にとりくんだとともに、新たな発見をする児童が多かった。映像があることで、視覚から理解することができ、わかりやすかったようである。映像を見ながら太鼓のリズムを打ったり、合いの手を口ずさんだり、楽しみながら活動にとりくむ児童が多く見られた。  ヨイショ!  ソーレ!  こんなリズムかな。
授業展開の概要	第4学年 1・2／6	○「白鳥」の曲の特徴を感じ取って聴き、言葉で表す。 ・演奏している楽器について知る。 ・「白鳥」の曲の感じと、それを生み出している特徴【リズム】【速度】について話し合う。 ○いろいろな「白鳥」の曲の特徴を感じ取って聴き、言葉で表す。 ・4つの「白鳥」の曲の感じと、それを生み出している特徴【リズム】【速度】について話し合う。 ・4つの中からお気に入りの「白鳥」を選ぶ。

指導の過程と考察	第4学年 1・2／6	常時活動で確認している4つのリズムを使って、iPadの「Notion」で様々なリズムの白鳥を作成し、4つの「白鳥」を聴き比べて、表現の特徴を基に、その曲に合った名前を作成し、その理由を書くようにしていった。「どこが変っていたかな。」と声掛けをすると、リズムや速度の違いに気づき、音楽の形づくっている要素から様々な名前をつけていた。(資料3) 4曲目になると、体全体で音楽を楽しみながら鑑賞活動にとりこんでいた。 そうしたら、「急いでいるような白鳥」って名前はどう？  16分音符が つかわれているよ！ 速度が速いね！
----------	---------------	---

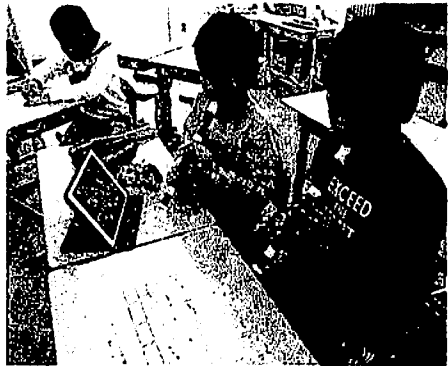
【手立て3：総合的な学習の時間へのつながり】

	時間	○学習内容 ・学習活動 【共通事項】
授業展開の概要	第3学年 総合的な学習の時間	○日本の文化（祭り）について調べる。 ・インターネットや本を活用して、祭りについて調べる。 ・祭りで流れているお囃子に使われている和太鼓の演奏をiPadで体験する。
指導の過程と考察	第3学年 総合的な学習の時間	音楽科の学習に入る前に、総合的な学習の時間で、日本の文化（祭り）について調べていった。調べていく中で、祭りで流れているお囃子で使われている和太鼓に興味を持つ児童が多く見られた。和太鼓を実際に叩いてみたいという感想が多く、iPadの「太鼓魂」「Ohayashi Sensei」を活用して和太鼓の演奏体験をした。「本物の和太鼓を叩いているみたい。」「迫力があって、力強い音がするんだね。」という感想が挙がった。(資料5) 家庭でもiPadを使ってやってみたという声も聞かれ、和太鼓に深く親しむ様子が伺えた。  いろんな和太鼓があって、面白いな。

(2) 仮説2 に対してのとりくみ

【手立て4：鑑賞と音楽づくりの関連を図った活動】

【手立て5：ペア活動を取り入れた活動】

	時間	○学習内容 ・学習活動 【共通事項】
授業展開の概要	第4学年 3～6／6	○旋律の特徴を生かして「せいじゃの行進」をリコーダーで演奏する。 ・リコーダーを使って演奏する。 ・i P a dの「ハヤえもん」を使って、伴奏の速度を変えながら、旋律の特徴を生かして演奏できるように練習する。 ○【反復】、【問いと答え】を入れて、「せいじゃの行進」の音楽づくりを行う。 ・どのようなイメージにするか話し合い、音楽づくりをする。 ○ペア発表を行い、学びを深める。 ・ペア発表を行い、良かったところ、使っている音符について話し合う。 ・音楽づくり、発表会に対する感想をワークシートに記入する。
	第4学年 3・4／6	4つの「白鳥」を聴き比べた後、お気に入りのリズムを選んだ。選んだリズムを使って「せいじゃの行進」の音楽づくりを行った。はじめは、選んだリズムをどのように活用すればよいのかが分からず、戸惑う児童がいた。そこで、それぞれのリズムを使った旋律を例として挙げると、どのように使ったらよいかが分かり、進んで音楽づくりにとりくみ、表現する姿が見られた。
指導の過程と考察	第4学年 5・6／6	「せいじゃの行進」をリコーダーで演奏し、【反復】、【問いと答え】を意識させて、音楽づくりを行っていった。練習をするときには、児童がi P a dの「ハヤえもん」を使って、伴奏の速度を変えながら、旋律の特徴を生かして演奏できるようにしていった。児童に合った速度で練習ができるため、「この速度だと、僕たちのイメージしているせいじゃの行進にならないよ。」や「呼びかけをたくさん入れて、難しい旋律をつくってみようよ。」など、児童の発言が多く見られ、児童どうしでのかわりを通して、主体的に表現する姿が見られた。また、リコーダーの技能面も向上を図ることができ、楽器を演奏することに最初は抵抗を示した児童も表現する力が高まっていった。
		 この速度で練習してみようよ！ ん？ちょっと速すぎないかな？ 速度が遅いほうが、泳いでいる白鳥みたいだね。

【手立て6：ICTを活用した表現活動】

	時間	○学習内容 ・学習活動 【共通事項】
授業展開の概要	第3学年 3～6／6	○ラ、ド、レの3つの音を用いて、お囃子の旋律をつくる。 ・ラ、ド、レの3つの音と、あらかじめ決められたリズムを使って、リコーダーを吹きながらお囃子の旋律をつくる。 ・グループごとにつくった旋律をリレーして、まとまりのある1つのお囃子をつくる。 ○和太鼓のリズム伴奏を加えて、まとまりのある音楽をつくる。 ・4つのお囃子の太鼓のリズムからお気に入りのリズムを選ぶ。そして、太鼓のリズムを考える。 ・お囃子の旋律に和太鼓のリズム伴奏を加える。
指導の過程と考察	第3学年 3～6／6	i P a dの「太鼓魂」を活用して、太鼓のリズム伴奏を考えた。はじめは4つのお囃子の太鼓のリズムからお気に入りのリズムを選んだ。そして、お気に入りのリズムを使って、太鼓のリズムを考えていった。慣れてくると、「本物みたいに合いの手を入れてみようよ。」「これだとつながらないから、違う音にしてみようよ。」など、様々な発想が生まれ、グループごとに音楽を楽しんでいる姿があったとともに、児童の表現に変化が見られた。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

仮説1について

- 常時活動を行うことで、リズムを正しく聴き取る力や、正確に打つ力がついた。常時活動を積み重ねていくことで、児童の自信となり、意欲も高まった。
- 第3学年の鑑賞活動では、ICTを活用して映像を流して見せたことで、音色の違いや演奏方法、表現方法の仕方を視覚的に理解することができ、演奏方法への興味・関心を深めることができた。その後の音楽づくりでも模倣して演奏をしようとしていた。
- ICTを取り入れた授業をきっかけとして、家庭でもi P a dを活用して音楽に親しむ児童が多くなっていった。

- 第4学年の鑑賞活動で聴き比べた4つのリズムを音楽づくりでも取り入れたことで、音楽を形づくっている要素をより理解することができ、児童も旋律がつくりやすくなり、進んで音楽づくりを行うことができた。また、音楽づくりを好きと回答する児童が増えた。(資料1-④)
- 活動後の感想では、「もっとやってみたい。」「音楽づくりが楽しくなった。」という感想が多く見られたので、今後の活動に生かしていきたい。(資料5)
- i P a dを使って和太鼓の演奏を体験することで、お囃子への興味・関心が高まり、意欲的に音楽づくりにとりくむことができた。(資料1-①、資料5)

仮説2について

- 少子化で予算が減っていく中で、高額である和楽器を揃えることは難しいため、ICTを活用することで、低予算で効率的に音楽的な環境を整えることができた。
- 児童自らがi P a dを使い、自分たちに合ったテンポで練習していくことで、全児童が曲に合わせることができ、表現力が高まった。
- 普段の生活で使い方の慣れているi P a dを使いながら太鼓のリズム伴奏を考えていったことで、今まで音楽づくりに消極的だった児童も意欲をもって表現をし、表現の幅が広がった。
- ペア活動を通して、児童どうしのコミュニケーションが高まり、比較的音楽が苦手と答えていた児童の技能の向上を図ることができ、表現力が更に高まった。

(2) 課題

仮説1について

- チェロの音色については、i P a dで使った白鳥の旋律とCDの演奏の音とが違うように聴こえてしまっていたが、これからは授業のねらいや場面に合わせて使い分ける必要がある。
- 鑑賞活動のときに、感じたことを言葉にして表現することが難しい児童が見られた。語彙力を高めていくために、音楽室に語彙力を高める掲示物を貼り、音楽的な環境を整えていくと、更に鑑賞活動も深まったと考える。

仮説2について

- i P a dで和太鼓のリズム伴奏を演奏すると、タッチとのズレがあり、違和感を覚える児童もいた。ズレがあることを理解した上で学習を進めていくことが必要である。
- 活動が終わってから「もっと表現を工夫したい。」という気持ちが生まれていた。中間発表会を行ったり、音楽集会等で発表したりしても良かったと思った。(資料5)
- i P a dで映像を流す際には、著作権に配慮して活用する必要がある。

参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説 音楽編」教育芸術社 2008
- ・「教育音楽小学版12月」音楽之友社 2016
- ・「音楽室に軌跡が起こる視聴覚機器&PC活用で楽しさ10倍の授業」明治図書 2011
- ・「教科のプロもおすすめするICT活用術」東洋館出版社 2016
- ・「音楽の力×コミュニケーションでつくる音楽の授業」東洋館出版社 2016

参考CD

- ・江戸祭囃子 ビクター伝統文化振興財団
- ・祭り囃子全曲集 日本コロムビア

資料

1 題材名 日本の音楽に親しもう（6時間）

教材名 「神田囃子」、「花輪ばやし」、「小倉祇園太鼓」、「佐原囃子」

【学習指導要領とのかかわり】

A表現（3）音楽づくり	イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。
B鑑賞（1）鑑賞	ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。
【共通事項】ア	（ア）音色、リズム、速度、旋律、拍の流れやフレーズ （イ）反復、変化

2 題材の目標

○日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、お囃子の音楽を聴いたり旋律をつくったりして、我が国や郷土に伝わる音楽に親しむ。

3 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①お囃子で使われる楽器の音色に興味・関心をもち、郷土に伝わる音楽がもつ曲想を感じ取って聴く学習に進んでとりくもうとしている。 ②お囃子の旋律に興味・関心をもち、ラ、ド、レの3つの音を使って旋律や和太鼓の伴奏をつくる学習に進んでとりくもうとしている。	①旋律やフレーズを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取って、ラ、ド、レの3つの音を使って旋律を工夫したり、和太鼓の伴奏をつくったり、どのような旋律をつくるかについて自分の思いや意図をもっている。	①ラ、ド、レの3つの音を組み合わせる簡単な旋律をつくり、リコーダーで演奏している。	①お囃子で使われている楽器の音色やリズム、速度、旋律の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出す曲想を感じ取り、その違いを発表するなどして、郷土の音楽のよさを味わって聴いている。

4 題材の指導計画及び評価計画（6時間扱い 本時5／6）

時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	・教員の働きかけ	◆評価規準 (評価方法)
1	◎日本の楽器の音に親しむ。 ○4つのお囃子の特徴を感じ取る。 ・それぞれのお囃子で使われている楽器の音色や速度などの違いを聴き比べる。 ・4つのお囃子の中で、気に入ったお囃子を1つ選び、発表し合う。	・使われている楽器の写真を提示したり、お囃子の映像をiPadで流したりして、視覚的にも違いに気づかせる。 ・どのようなところが気に入ったのか、その理由を発表するように促す。	◆関一① (行動観察・ 発言内容)
2	○4つのお囃子の太鼓のリズムを感じ取る。 ・映像を見て、和太鼓を演奏するまねをしながら、それぞれの太鼓のリズムを聴き取る。 ・4つのお囃子の太鼓のリズムを口唱歌しながらリズム打ちを行う。 ・4つのお囃子の中で、気に入った太鼓のリズムを1つ選ぶ。	・児童から出たリズムを言葉や絵で表す。 ・iPadでつくったリズム伴奏やメトロノームを流しておきながら、個別に指導する。	◆鑑一① (発言・とりくみ ・ワークシート)
3・4	◎お囃子の旋律をつくる。 ○3つの音でお囃子の旋律をつくる。 ・ラ、ド、レの3つの音と「せんりつをつくるリズム」を使い、2小節の旋律をソプラノリコーダーでつくる。 ・つくった旋律を発表し合い、「つづく感じ」の旋律と「終わる感じ」の旋律を見つける。 ・つくった旋律をグループごとにリレーしてつなげる。	・拍の流れにのるために、4拍目で「ハイ」や「ソレ」と掛け声を入れる。 ・続く感じ、終わる感じに気づくようにして、思いや意図をもって、旋律をつなげるように促す。	◆関一② (ワークシート) ◆創一① (行動観察・ ワークシート)
5 ／ 6 (本時)	○和太鼓のリズム伴奏をつくる。 ・それぞれの和太鼓のリズムを口唱歌で歌いながらリズム打ちをする。 ・お気に入りのお囃子の太鼓のリズムを確認して、どんなお囃子にしたいかをグループごとに話し合い、iPadを使いながらつくっていく。	・お気に入りのリズムをどのように使うとよいかを伝える。	◆創一① (行動観察・ ワークシート)

	○つくった旋律やリズム伴奏を使って、まとまりのある音楽をつくる。 ・つなげた旋律に和太鼓のリズム伴奏を加えて、まとまりのある1つの音楽をつくる。		
6	○友だちの演奏を聴いて、お囃子の音楽を楽しむ。 ・友だちの発表を聴き、お囃子の音楽を楽しむ。 ・友だちのよかったところを発表する。	・どんな工夫をしていたか、自由に話すように促す。	◆技ー① (とりくみ・態度)

5 本時の学習 (5/6)

(1) 本時の目標

○お気に入りのリズムを効果的に使って、まとまりのあるお囃子をつくる。

(音楽表現の創意工夫)

(2) 本時の展開

時配 (形態)	学習内容・学習活動【共通事項】	○教員の働きかけ ◆評価規準(評価方法)
5分 (一斉)	○ 4つのお囃子のリズム打ちを行う。	○集中力を高めさせるために、常時活動を取り入れることで、授業への雰囲気づくりを心がける。
5分 (一斉)	○ 本時のめあての確認をする。 お気に入りのリズムを効果的に使って、リズムばんそうを考えて、おはやしをつくろう。	
25分 (グループ)	○ グループに分かれて、和太鼓のリズム伴奏を考える。 【旋律、反復、変化】 ・お気に入りの和太鼓のリズムをもとにどのようなイメージにするかを話し合う。 ・i P a dを操作して、和太鼓のリズム伴奏を演奏しながら考えていく。	○和太鼓のリズムの掲示を見て気に入ったリズムを確認し、自分の使うリズムが何かを確認する。 ○i P a dを操作するときに、少し早めに操作するとよいことを伝える。 ○自分たちの表現の工夫に生かすように演奏でよい工夫をしているグループに演奏をさせる。 ◆創ー①(行動観察・ワークシート)
5分 (一斉)	○ 友だちの演奏を聴き、そのよさを自分たちの演奏に生かす。	○友だちの演奏を聴くときは、太鼓のリズムと音のつながりを意識して聴けるようにする。 ○自分たちのグループの課題点に導くきっかけをつくる。

	・ 太鼓のリズム、音のつながりを意識しながら聴く。	○演奏後に表現のよかったところを自由に話すように促す。
5 分 (一斉)	○ 次時の活動の確認をする。	○次時は発表会をすることを伝える。

板書計画

お気に入りのリズムを効果的に使って、 リズムばんそうを考えて、おはやしをつくろう。	
太鼓のリズム譜	お囃子の特徴

1 題材名 せんりつのとくちょうを感じ取ろう (6時間)

教材名 「せいじゃの行進」

「動物の謝肉祭」より「白鳥」 サン・サーンス作曲

【学習指導要領とのかかわり】

A表現(2) 器楽 イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。

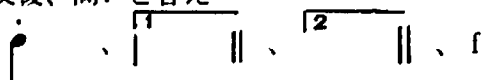
(3) 音楽づくり イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。

B鑑賞(1) 鑑賞 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。

【共通事項】ア (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、フレーズ

(イ) 反復、問いと答え

イ 

2 題材の目標

○旋律の特徴にふさわしい歌い方や演奏の仕方を身に付け、曲想にふさわしい表現を工夫しながら思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。

○旋律の特徴や曲想を感じ取りながら音楽を聴き、感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付く。

3 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①楽器の音色、旋律の特徴などが醸し出す曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んでとりくもうとしている。	①旋律、強弱、フレーズ、問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもっている。	①音色に気を付けて重なり合う音を聴き合い、旋律の特徴を生かしながらリコーダーを演奏している。	①曲想とその変化や旋律の特徴など音楽を形づくっている要素のかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。
②旋律の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に進んでとりくもうとしている。		②旋律の特徴を感じ取り、曲想にふさわしい表現でリコーダーを演奏している。	

4 題材の指導計画及び評価計画（6時間扱い 本時5／6）

時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	・教員の働きかけ	◆評価規準 (評価方法)
1	◎旋律の特徴を感じ取りながら聴く。 ○「白鳥」の曲の特徴を感じ取って聴き、言葉で表す。 ・演奏している楽器について知る。 ・「白鳥」の曲の感じと、それを生み出している特徴【リズム】【速度】について話し合う。	・i P a dを使って、弦楽器の音を流して確認する。 ・白鳥が湖を泳いでいる写真をテレビに映す。	◆関－① (行動観察・発言内容)
2	○いろいろな「白鳥」の曲の特徴を感じ取って聴き比べ、言葉で表す。 ・4つのリズムの「白鳥」を聴き比べ、曲の感じやそれを生み出している特徴【リズム】【速度】について話し合う。 ・それぞれの曲に「○○な白鳥」と名前をつける。 ・4つの中からお気に入りの「白鳥」を選び、カードに書く。	・i P a dで作成した4つの「白鳥」を流す。 ・音楽を形づくっている要素と合致するように「○○な白鳥」と名前をつけるよう助言する。	◆鑑－① (発言・とりくみ・カード)
3・4	◎旋律の特徴にふさわしい吹き方で演奏する。 ○旋律の特徴を生かして「せいじゃの行進」をリコーダーで演奏する。 ・「せいじゃの行進」の節奏を聴き、曲の感じをつかむ。 ・スタックアートが付いている部分と付いていない部分を意識しながら、リコーダーで演奏する。	・i P a dの「ハヤえもん」でリズム伴奏のテンポを調節し、各自の技能に合ったテンポで練習するよう助言する。	◆技－① (とりくみ・態度)
5／6 (本時)	◎【反復】、【問いと答え】を取り入れて、音楽づくりをする。 ○【反復】、【問いと答え】を取り入れて、「せいじゃの行進」の音楽づくりをする。 ・ペアになって音楽づくりをする。 ・お気に入りの「白鳥」のリズムをもとにどのようなイメージにするかを話し合う。	・ワークシートに【反復】（まねっこ）はピンク色、【問いと答え】（よびかけ）は水色の付箋紙を貼って曲の特徴を見やすくする。	◆関－② (とりくみ・態度) ◆創－① (とりくみ・ワークシート)
6	○友だちの演奏を聴いて、旋律の違いや曲の仕組みを理解する。	・練習の仕方のよいペアを選出し、その様子を見さ	◆技－② (とりくみ・態度)

	・ペアに分かれて練習をする。 ・使っているリズムや【反復】や【問いと答え】を意識しながら聴く。	せることで、自分たちの演奏に生かすように促す。 ・曲想にふさわしい表現をしているペアの演奏を聴かせ、意識を高める。	
--	--	--	--

5 本時の学習（5／6）

（1）本時の目標

○音楽を形づくっている要素（【反復】、【問いと答え】）を生かし、イメージに合った音楽を工夫してつくる。
 （音楽表現の創意工夫）

（2）本時の展開

時配 (形態)	○学習内容・学習活動【共通事項】	○教員の働きかけ ◆評価規準（評価方法）
5分 (一斉)	○ 「きらきら星」のリズム打ちを行う。	○常時活動を取り入れることで、集中力を高めさせる。
5分 (一斉)	○ 本時のめあての確認をする。 「まねっこ」「よびかけ」を使って、イメージに合ったせいじゃの行進のせんりつを工夫して作ろう。	
25分 (ペア)	○ ペアに分かれて、音楽づくりをする。 【リズム、速度、旋律、反復、問いと答え】 ・お気に入りの「白鳥」のリズムをもとにどのようなイメージにするかを話し合う。	○お気に入りのリズムの掲示を見て、自分の使うリズムが何かを確認する。 ○4つのリズムを確認し、それらのリズムを使った旋律の例を提示する。 ○【反復】（まねっこ）はピンク色、【問いと答え】（よびかけ）は水色の付箋紙を楽譜に貼って旋律づくりをするように伝える。
5分 (一斉)	4 友だちの演奏を聴き、そのよさを自分たちの演奏に生かす。 ・【反復】、【問いと答え】を意識しながら聴く。	◆関－②（とりくみ・態度） ○友だちの演奏を聴くときは、【反復】、【問いと答え】のどちらを取り入れて演奏しているのかを意識して聴くよう助言する。 ○演奏後に楽譜と合っていたか、どのリズムを使っていたか、【反復】、【問いと答え】のどちらを取り入れていたのか児童に問い、自分の音と合っているか照らし合わせるように伝える。
5分 (一斉)	5 次時の学習内容を確認する。	◆創－①（取り組み・ワークシート） ○友だちの発表を聴き、その工夫点の良いところを取り入れるように促す。

板書計画

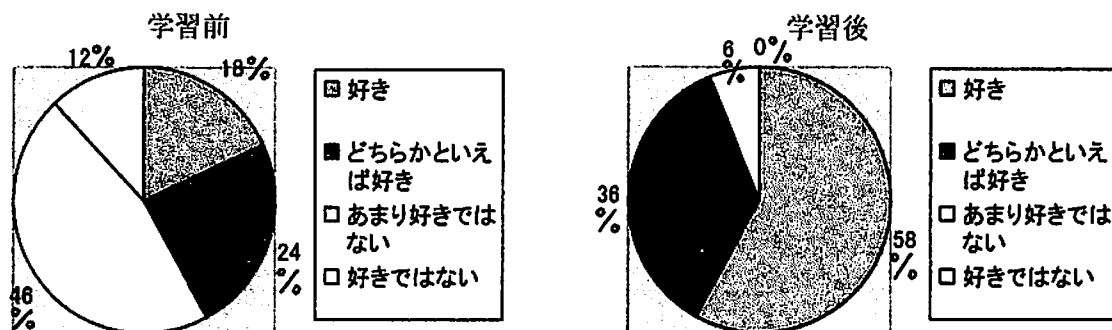
「まねっこ」「よびかけ」を使って、イメージに合ったせいじゃの行進のせんりつを工夫して作ろう。 まねっこ よびかけ		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%; height: 40px;"></td> <td style="width: 25%; height: 40px;"></td> <td style="width: 25%; height: 40px;"></td> <td style="width: 25%; height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> </tr> <tr> <td>な白鳥</td> <td>な白鳥</td> <td>な白鳥</td> <td>な白鳥</td> </tr> <tr> <td>な白鳥</td> <td>な白鳥</td> <td>な白鳥</td> <td>な白鳥</td> </tr> <tr> <td>な白鳥</td> <td>な白鳥</td> <td>な白鳥</td> <td>な白鳥</td> </tr> <tr> <td>旋律例</td> <td>旋律例</td> <td>旋律例</td> <td>旋律例</td> </tr> </table>					①	②	③	④	な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥	旋律例	旋律例	旋律例	旋律例
①	②	③	④																							
な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥																							
な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥																							
な白鳥	な白鳥	な白鳥	な白鳥																							
旋律例	旋律例	旋律例	旋律例																							

(資料1) 実態調査結果

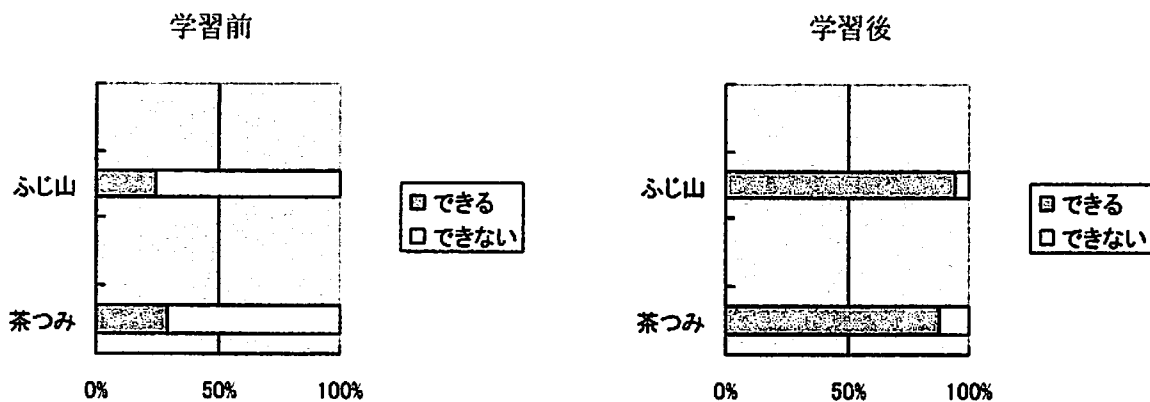
第3学年(男子8人 女子9人 計17人) 調査日: 学習前 2017年1月12日

学習後 2017年2月 2日

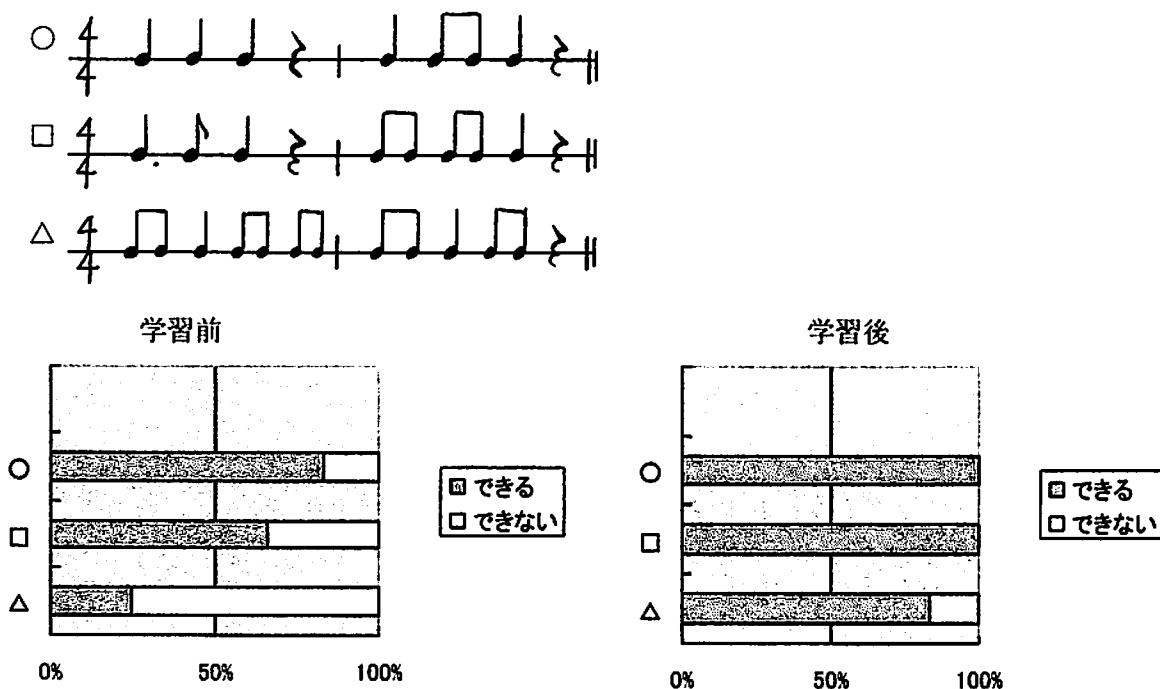
①音楽づくりは好きか。



②音のつながりを聴き取ることができたか。

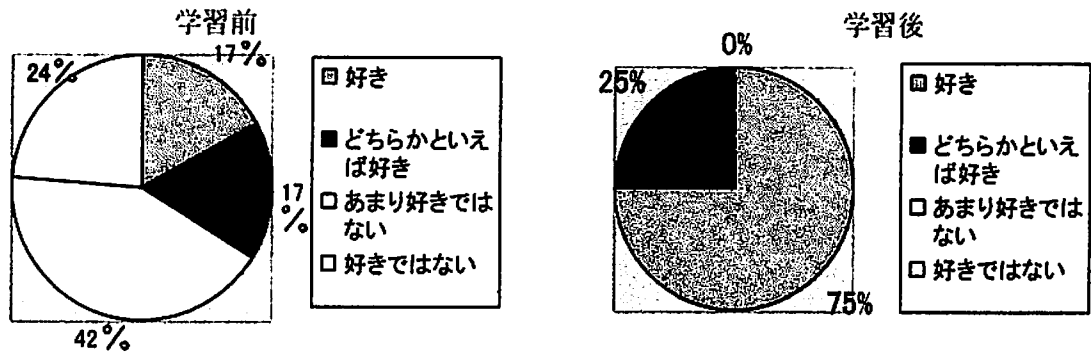


③一定のテンポでリズムの模倣をすることができたか。(4分音符を1拍分として答える。)

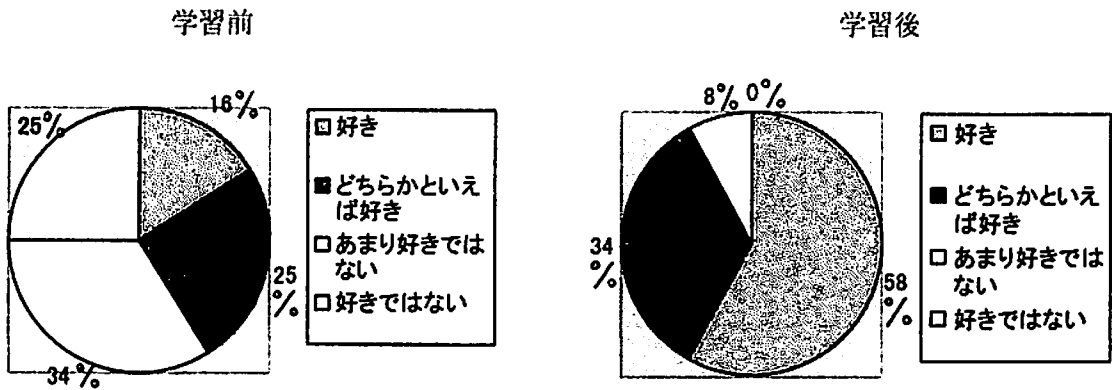


第4学年（男子7人 女子5人 計12人） 調査日：学習前 2016年11月10日
 学習後 2016年12月 1日

④音楽づくりは好きか。

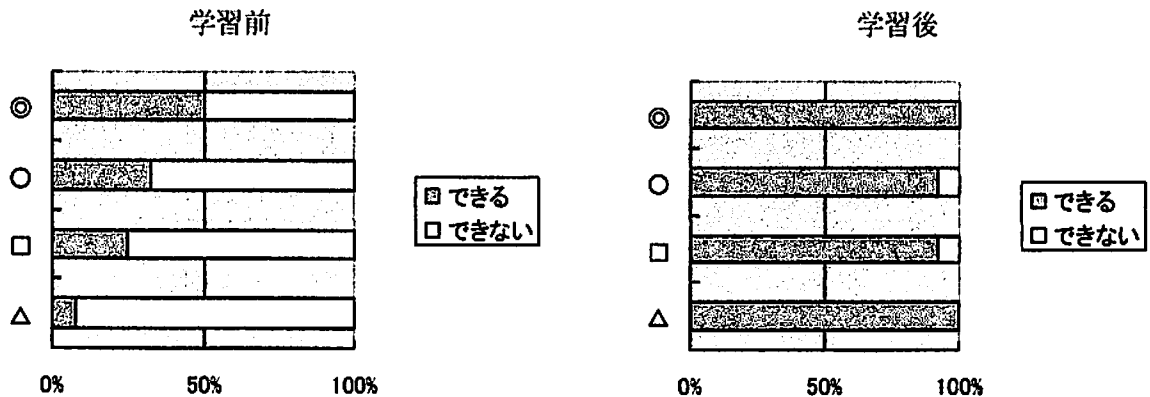


⑤楽器を演奏することが好きか。

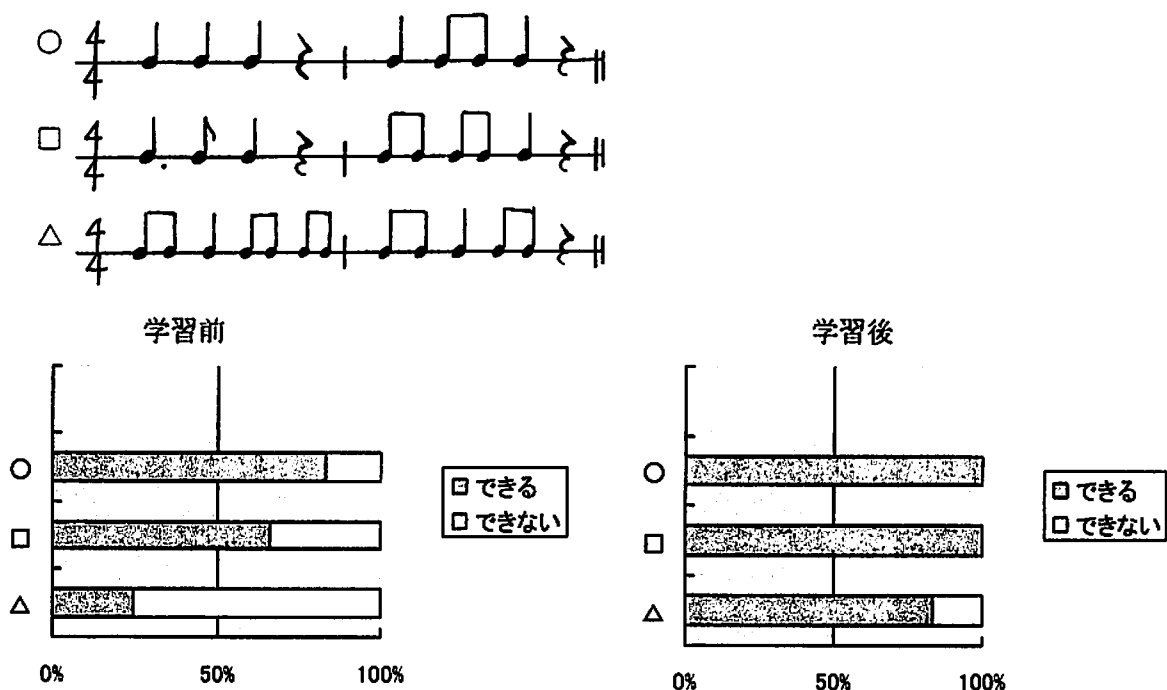


⑥音符の名前を答えることができたか。

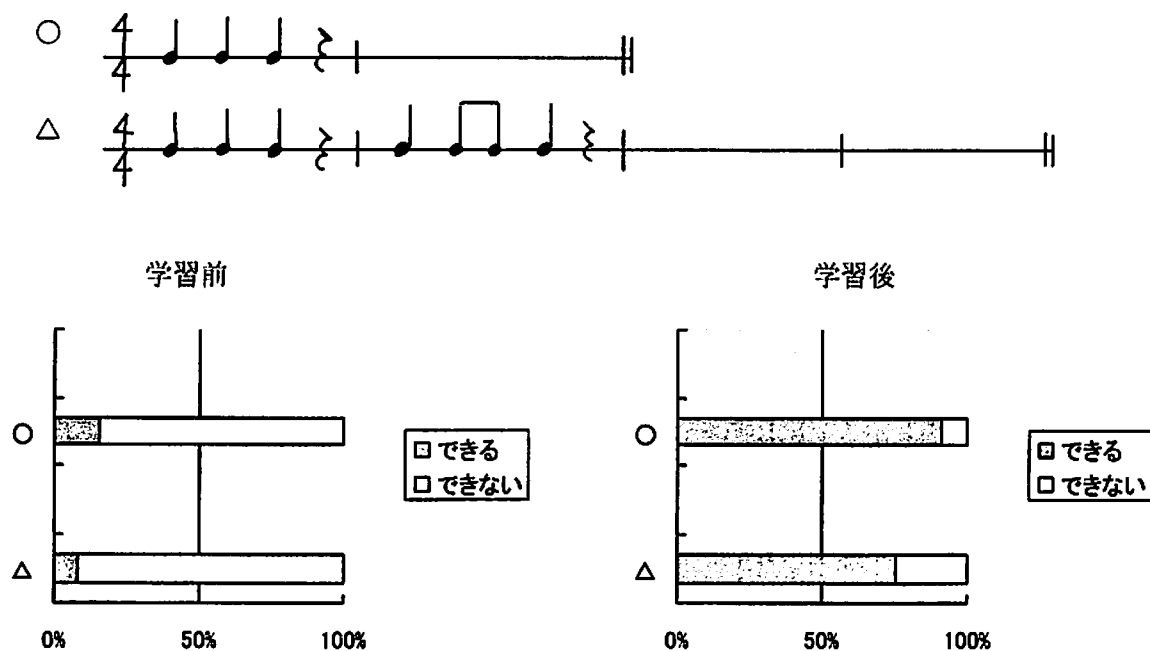
◎ 4分音符 ○ 8分音符 □ 16分音符 △ 符点音符



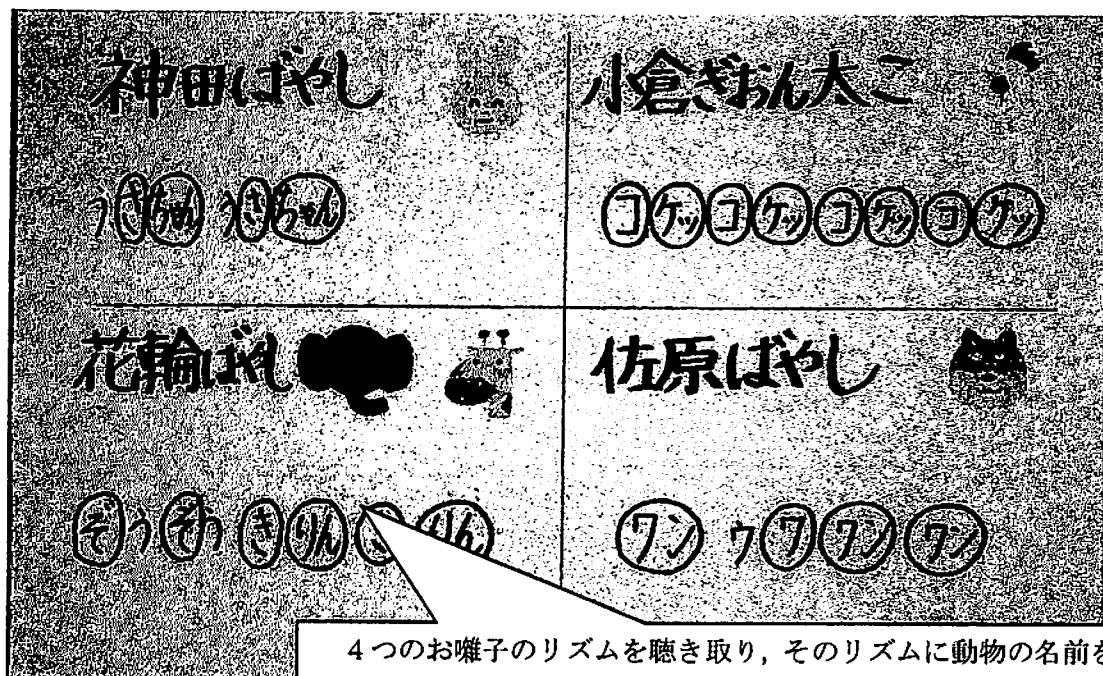
⑦一定のテンポでリズムの模倣をすることができたか。(4分音符を1拍分として答える。)



⑧一定のテンポでリズムの【問いと答え】を演奏することができたか。
(4分音符を1拍分として答える。)



(資料2)



4つのお囃子のリズムを聴き取り、そのリズムに動物の名前を当てはめて口唱歌しながら打つ練習をした。お囃子のリズムに慣れ親しみ、旋律に合った和太鼓のリズムを進んで考えたり、拍に合わせて打ったりすることができた。

(資料3)



「16分音符が使われているから、いそいでいるような白鳥」,
「符点音符が使われているから、うれしそうな白鳥」など、「音楽を形づくっている要素」について理解し、イメージを言葉で「○○な白鳥」と表現することができていることが感じ取れる。

「まねっこ」「よびかけ」を使って、イメージに合った
 「せいじゃの行進のせんりつを工夫してつくろう」

よびかけ

よびかけ

ソ シ ド レ シ ソ シ ラ シ シ ラ

ソ ソ シ レ レ ド シ ド レ シ

ソ ラ ソ シ ド ソ

「まねっこ」「よびかけ」を使って、イメージに合った
 「せいじゃの行進のせんりつを工夫してつくろう」

よびかけ

よびかけ

ソ ソ ソ シ ド シ シ ド ド ド レ シ シ ラ

ソ ソ シ レ レ ド シ ド レ シ

ソ ラ ソ シ ド ソ

友だちのえんそうにはいろんな種類(音の合い)の手とが強く弱があつてすごかった!自分達ももっと工夫していいおはやしにしたい。

iPadの和太こも入れて、オリジナルのおはやしをつくれて、すごくおもしろかったです。もっといろいろおはやしをつくらしてみたいです。

いろいろな和太こがあつて、音もちがえりおもしろかった。さあると花火が出てすごかった。自分たちのおはやしがつくられてよかった。

えんそうを見ながらおはやしをきくと、いろいろな楽しさをつかっているのかよく分かった。おとりのもあつておはやしが大変な音になった。

いろいろなリズムを組み合わせてせんりつをつくれた。おはやしはすごくおもしろかった。

iPadで和太このえんそうができて楽しかった。迫力があつて、力強い音だった。

リコーダーでまね、ことよびかけを
入れて、オリジナルのせんりつをつくれ
て、すごく楽しかった。ipadで自分
たちにあたり速さで練習ときよかった。

リコーダーがすごく上手になり
ました!!!自分に合ったテンポで
練習して、たくさんやれたからだと
思います。すごく楽しかったです。

リコーダーでまね、ことよびかけ
を入れたせんりつを拍に合わせて
いくことができました。リコーダー
が上手になりました。

士がしいところもあったけど、この学習で
いろいろなことがあった。(スタカト、まねこ、
ことよびかけ)前までふけなかったけど、合わせて
ふけるようになった。